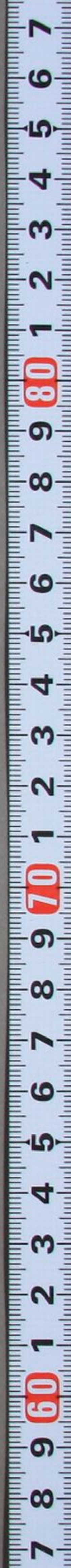


圓光大師傳

三四

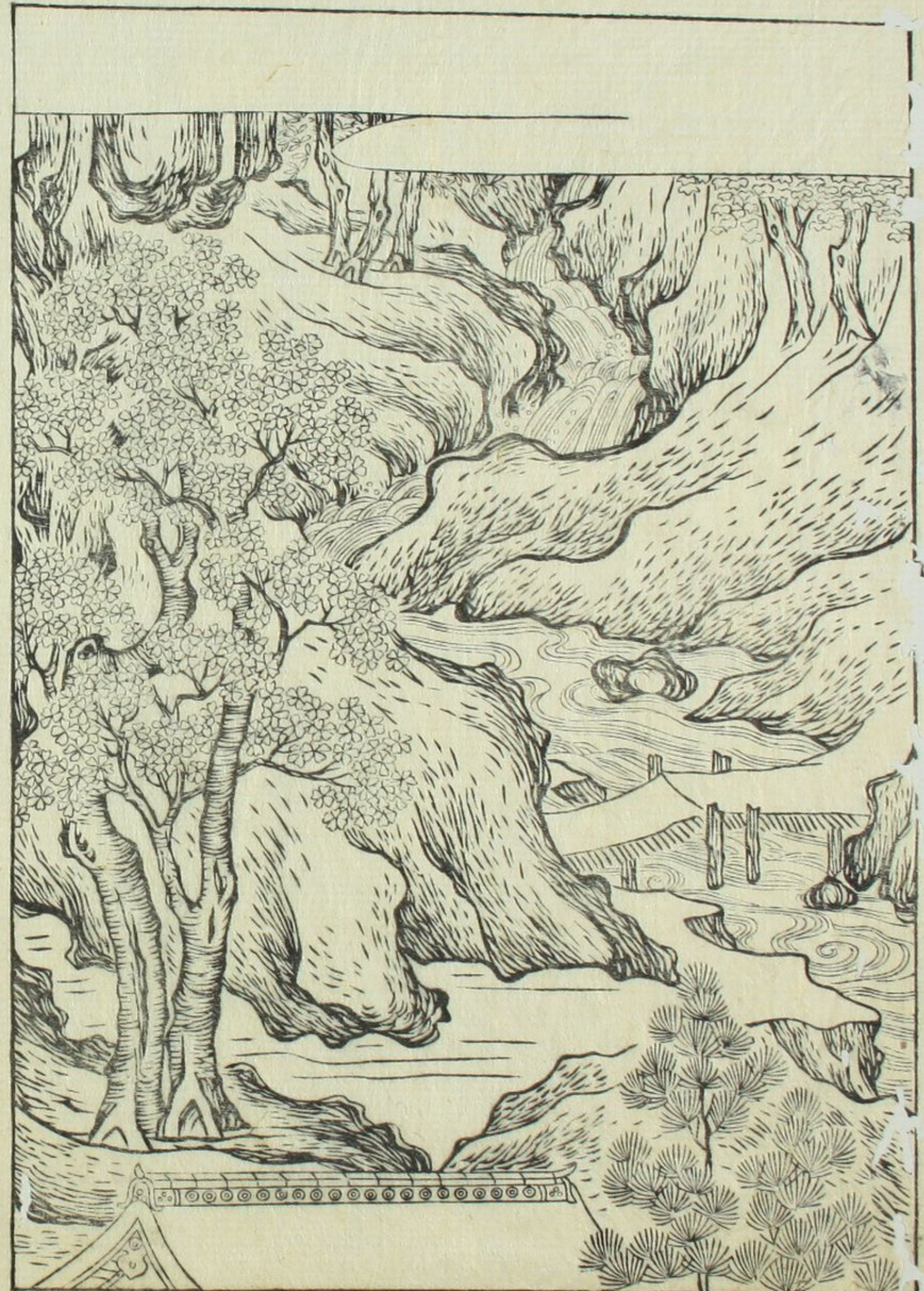


一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

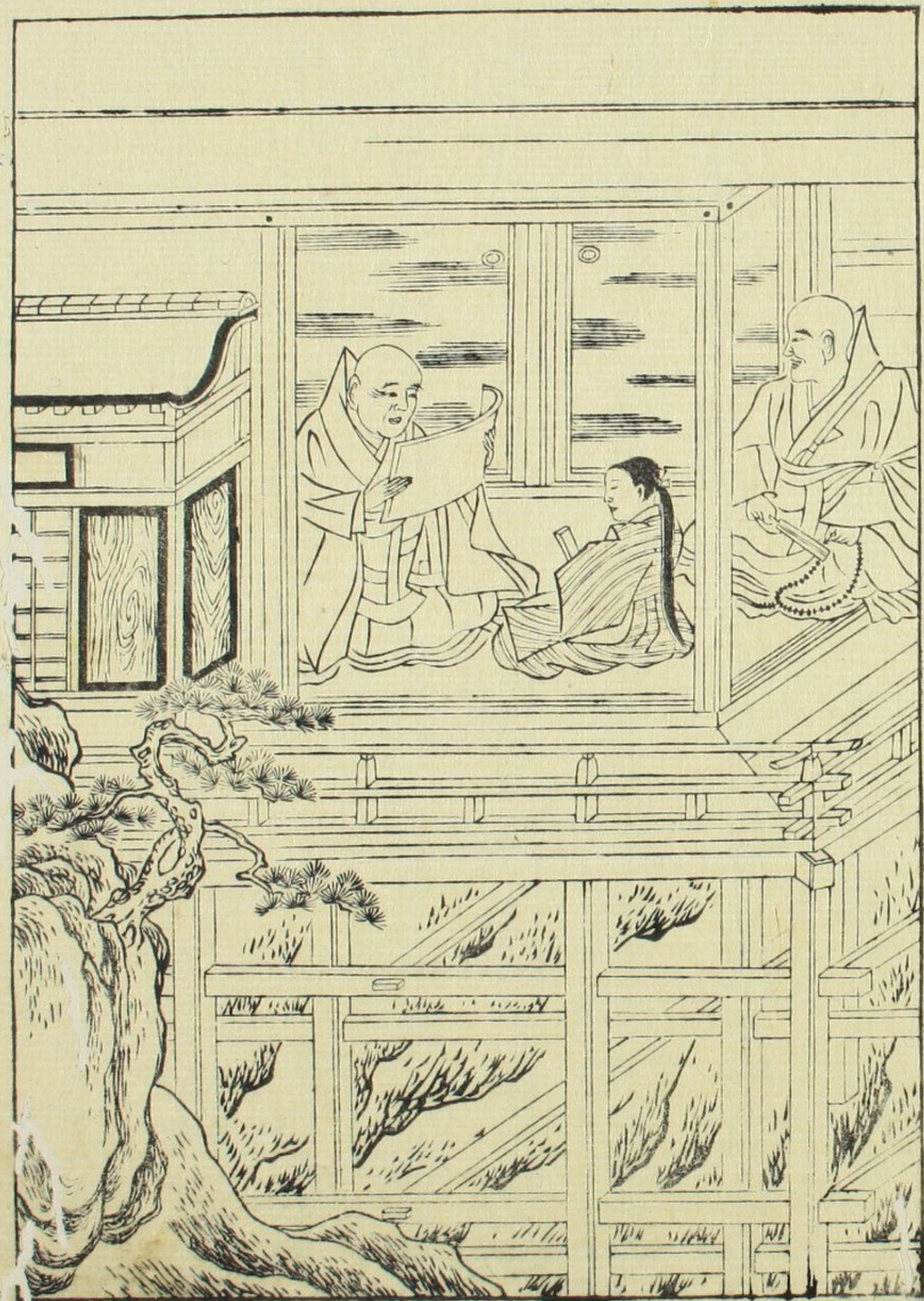
法然と人行状畫圖牙三

童子入洛の後、^{おろく}乃親^{いん}覺^{かく}得^{とく}業^{ごふ}の状^{じやう}を持^も寶^{ほう}房^{ぼう}よ
はつりて、源光親^{げんこういん}覺^{かく}えり、状^{じやう}を披^ひ張^{ちやう}し、^{いん}とく^{ごふ}の像^{ざう}を
まじりぬすに、たゞ小児^{せうじ}乃^{なり}と上^{かみ}海^{うみ}さる^るより、使者^{しや}やられ
と源光^{げんこう}もやく、児童^{じやうじやう}の聰明^{とうめい}たること、^{いん}とく^{ごふ}のぬすま
らひ、^{いん}とく^{ごふ}のひんり、^{いん}とく^{ごふ}の^{いん}とく^{ごふ}は、同^{どう}十五^{じふご}日^{にち}小^{せう}登^{とう}山^{さん}
す。







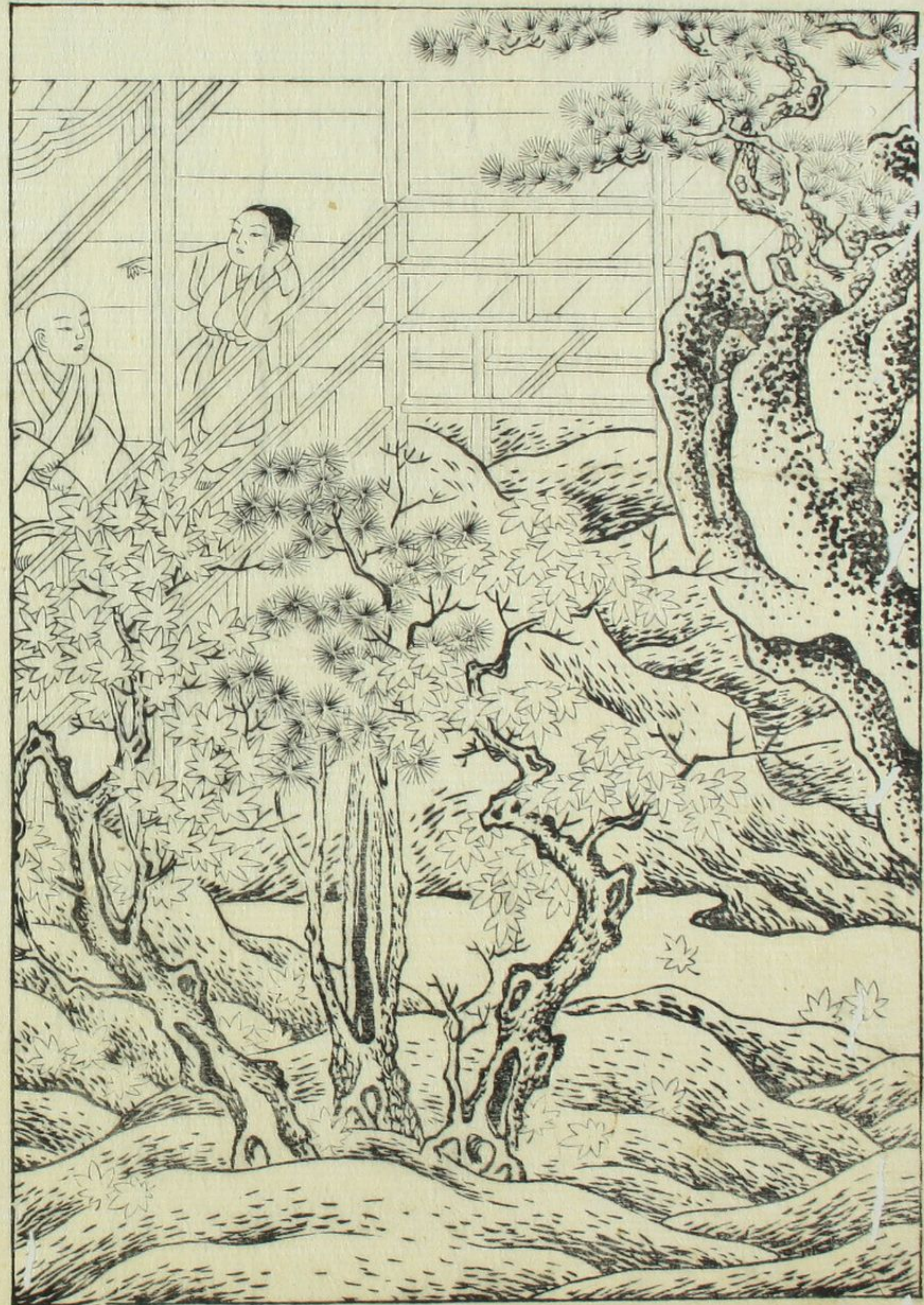


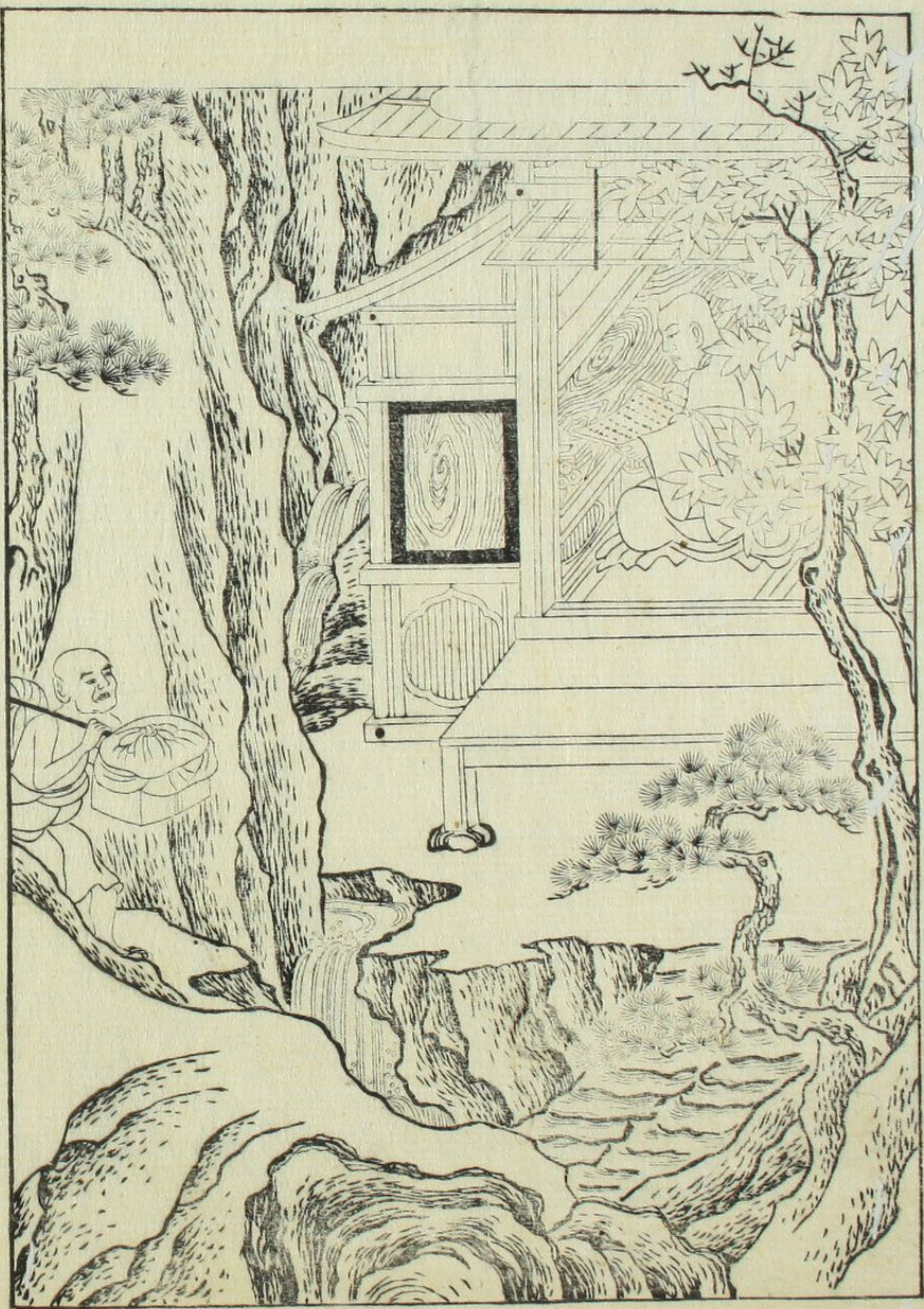


同年十月八日。花巻にてその法衣被せり。戒壇院
 あり。大乗戒をうき給ふなり。

ある時どてよあぬの本意をとげ侍ぬいよふをま
 てい跡を林藪りののまじんをおふより師範の雲
 ふ申さしきまいたる限道乃志ありともむら六十
 巻をよみて侍らその本意故遂成まより。尚
 梨いふ免給をせん。わき深居を祈ふ事いたる
 名利を故成りて志のりふ佛法を修学せんといふ
 たりこれ仰まるとして志のりかしく生年十六歳
 の春うりりて本書成ひて三箇年を過て三才部

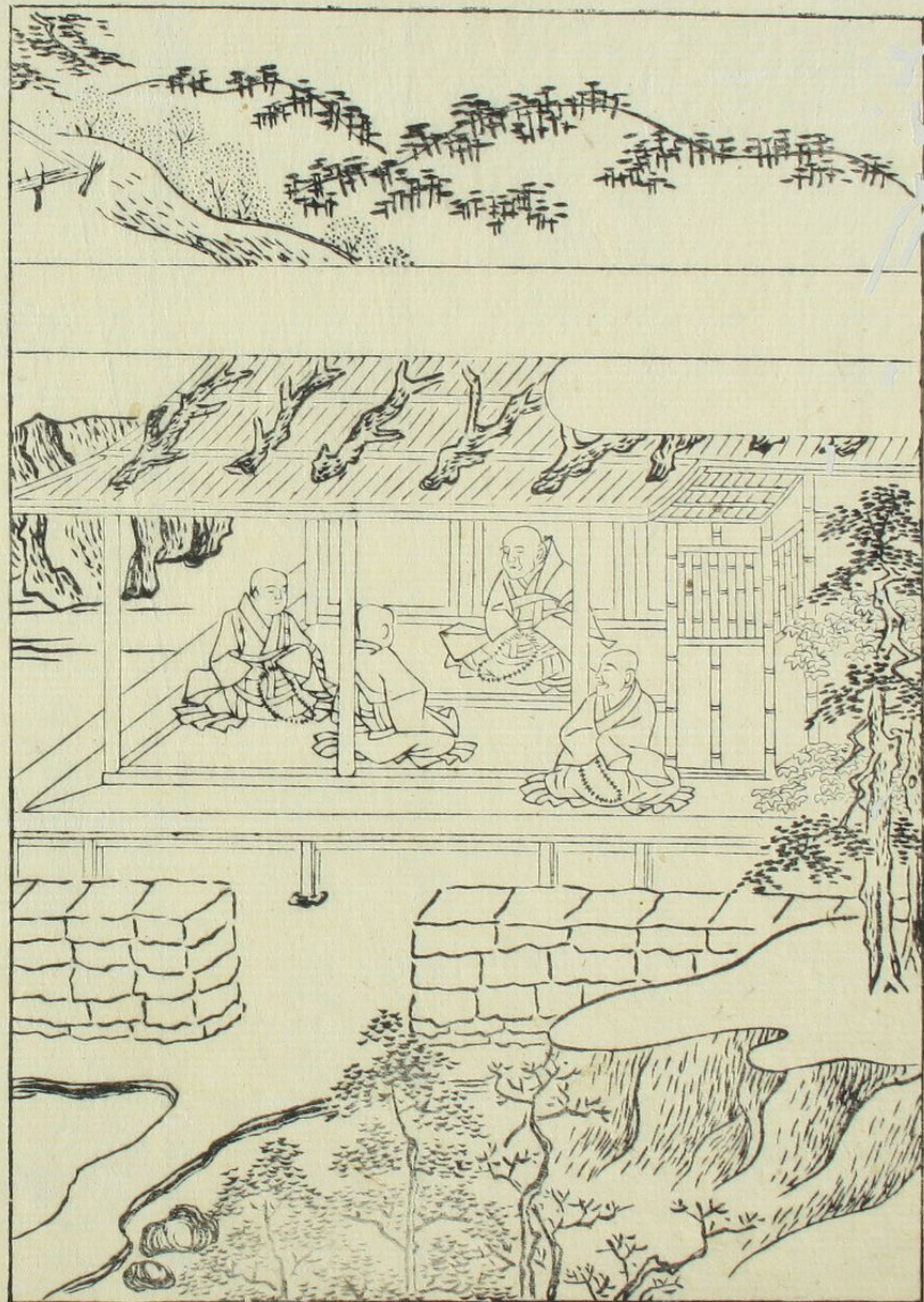
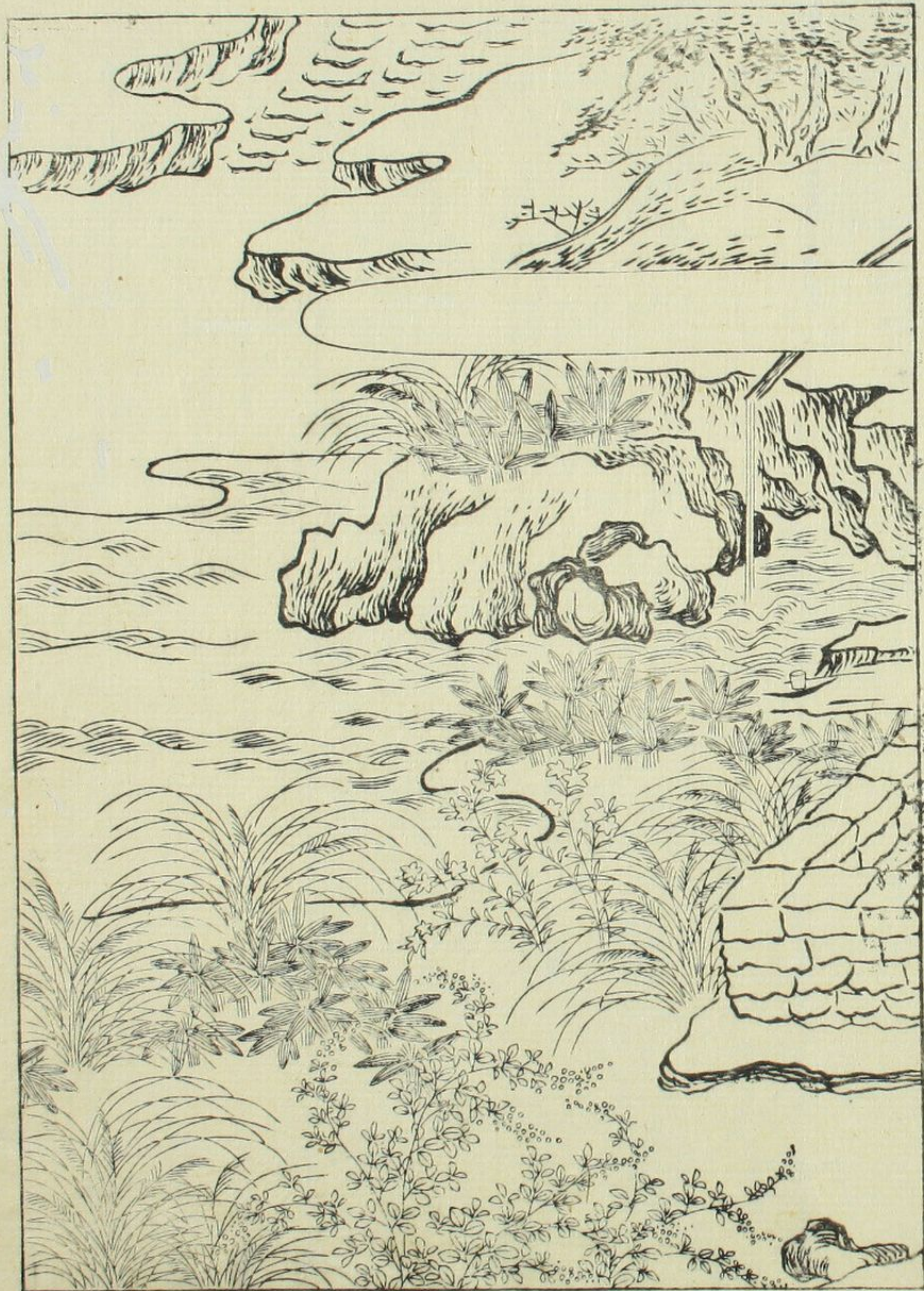
をわたり給ぬ。





惠解天然あり。秀逸乃まことあり。四教立時の
 廢立法をうけ。三觀一心代妙理。玉成るごとく。而立
 代後勢。殆師のをうへり。出えり。密契いよく
 感歎して。学道をはたせん。大業をとげく。名宗の
 棟梁とたり。殆へと。ありく。こころへ申され。名
 らも。更よ。兼路の洞なり。あをこれ名利乃学
 業あることをいひ。ゆらち。比よ。師席を辞して。
 久安六年九月十二日。生年十八歳あり。西塔黒谷

乃慈眼房。教室の廬。小なりぬ。幼稚の昔より成
人の今ふ。正しく。又其處。云々。わを就く。て。ま。て。し
た。く。よ。限。道。の。心。少。た。り。を。の。入。路。よ。お。年。少。く
も。く。も。確。の。心。を。ね。を。り。ま。く。に。これ。法。然。乃。理
れ。い。ぢ。り。た。り。也。隨。法。して。法。然。房。と。号。す。實
名。源。光。の。上。れ。字。と。教。室。乃。下。れ。字。故。と。り。て。源。室
ら。と。は。者。し。れ。た。家。の。教。室。上。人。大。原。の。良。忍。上
人。の。附。屬。圖。顯。戒。相。兼。の。正。統。なり。瑜。伽。秘。密。乃
法。り。あ。ま。し。い。と。い。へ。し。ふ。い。れ。を。い。へ。し。四。海。に
を。た。う。と。い。たり



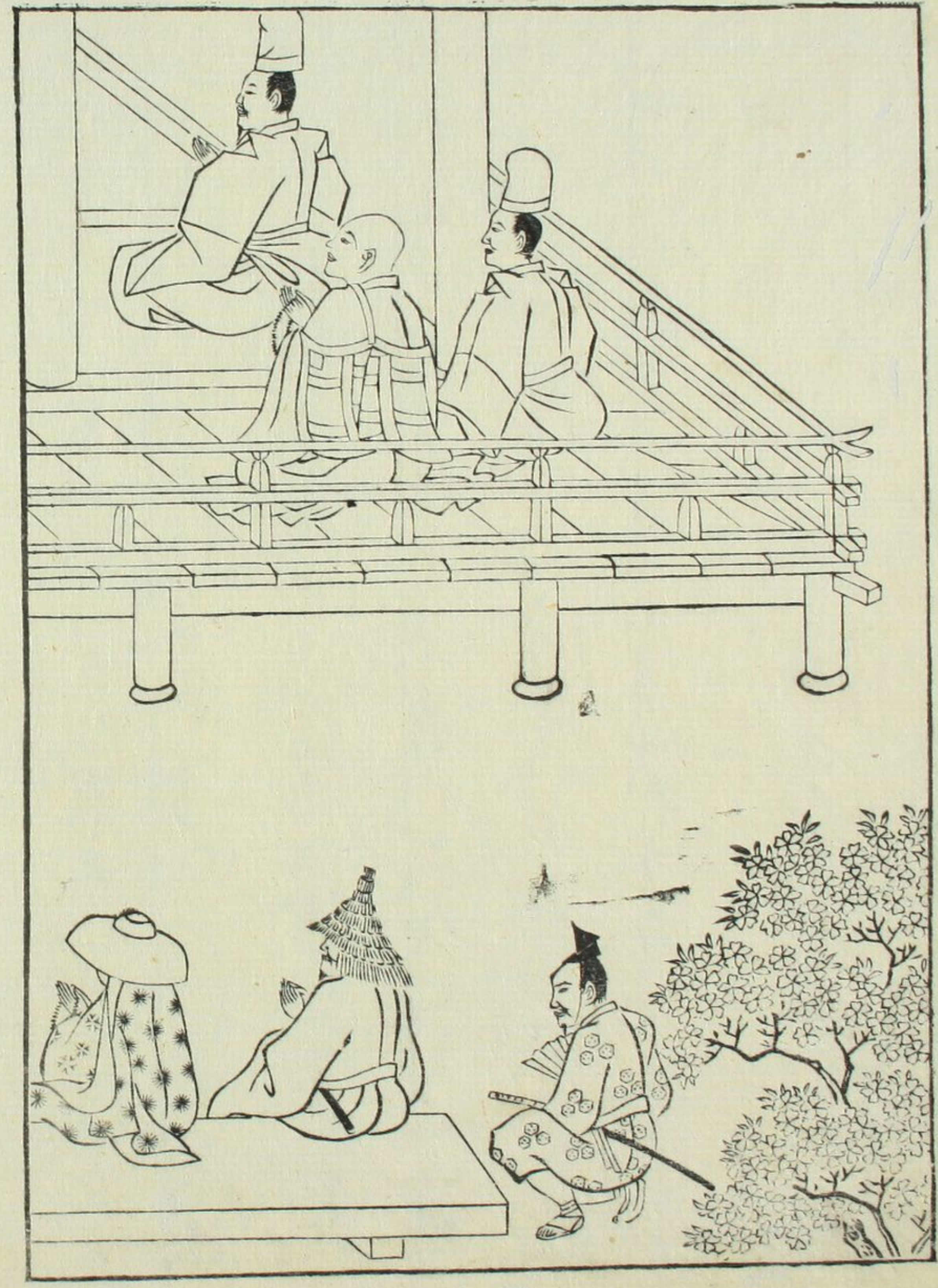
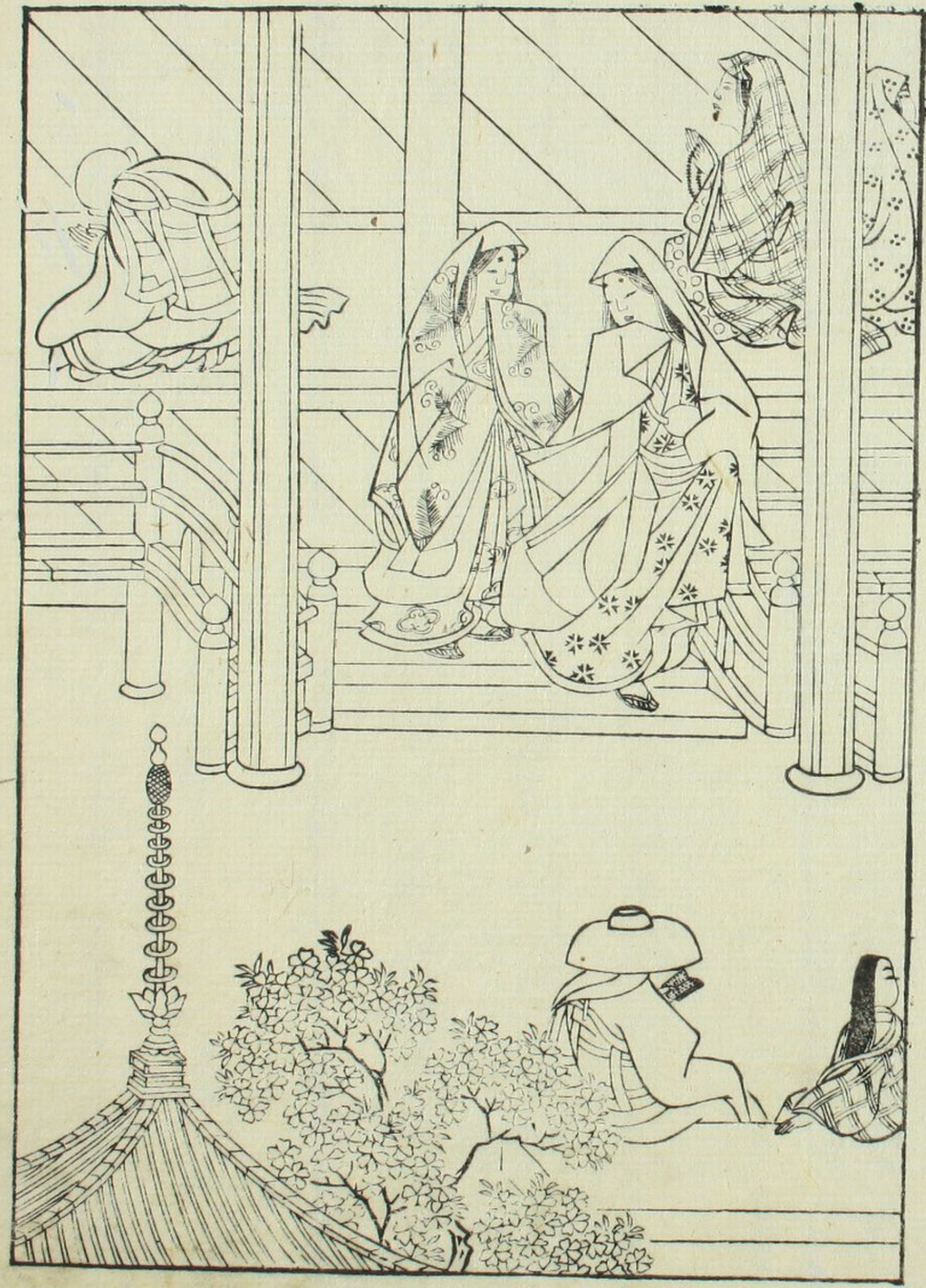
法然上人行状畫圖第四

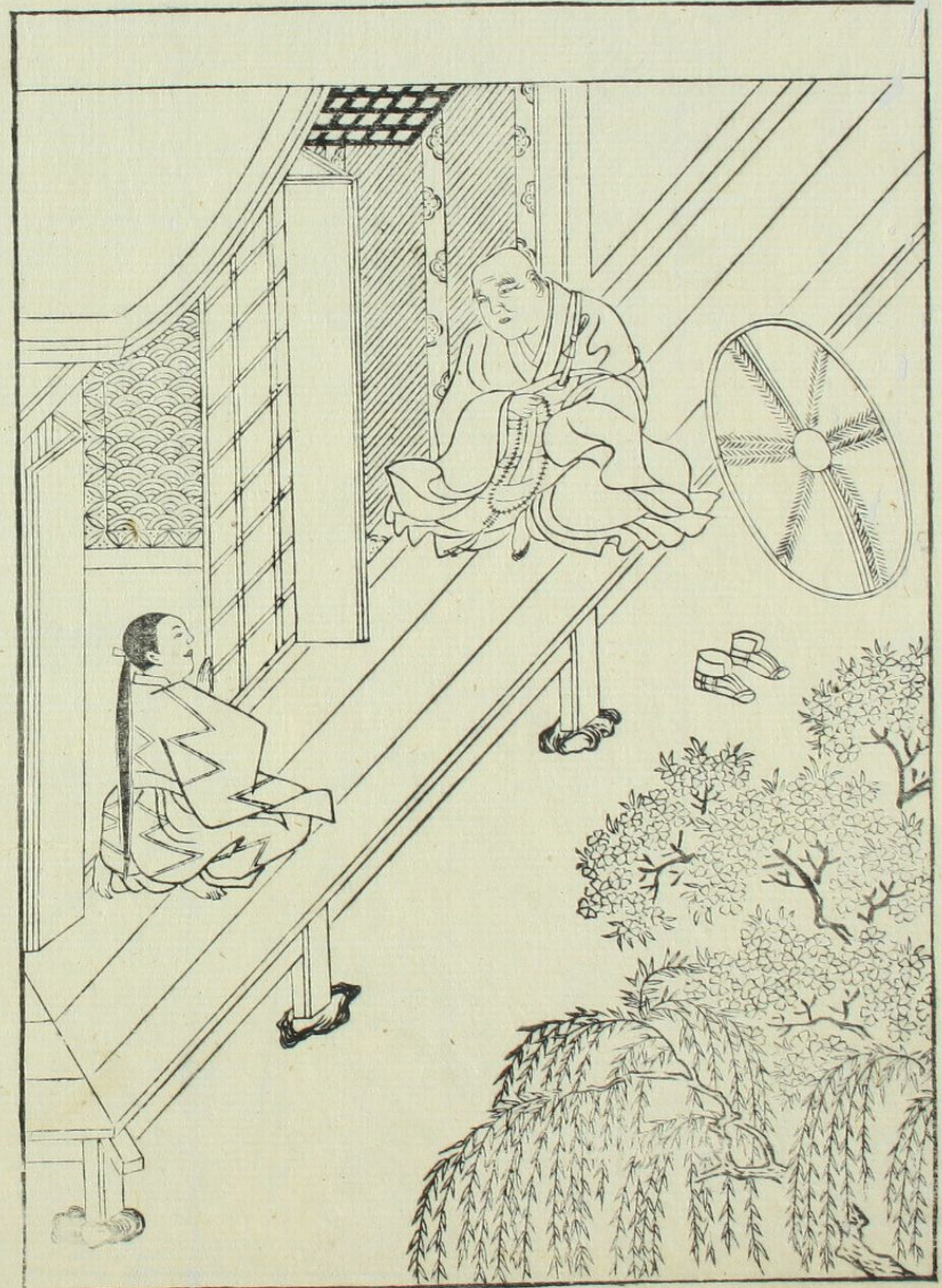
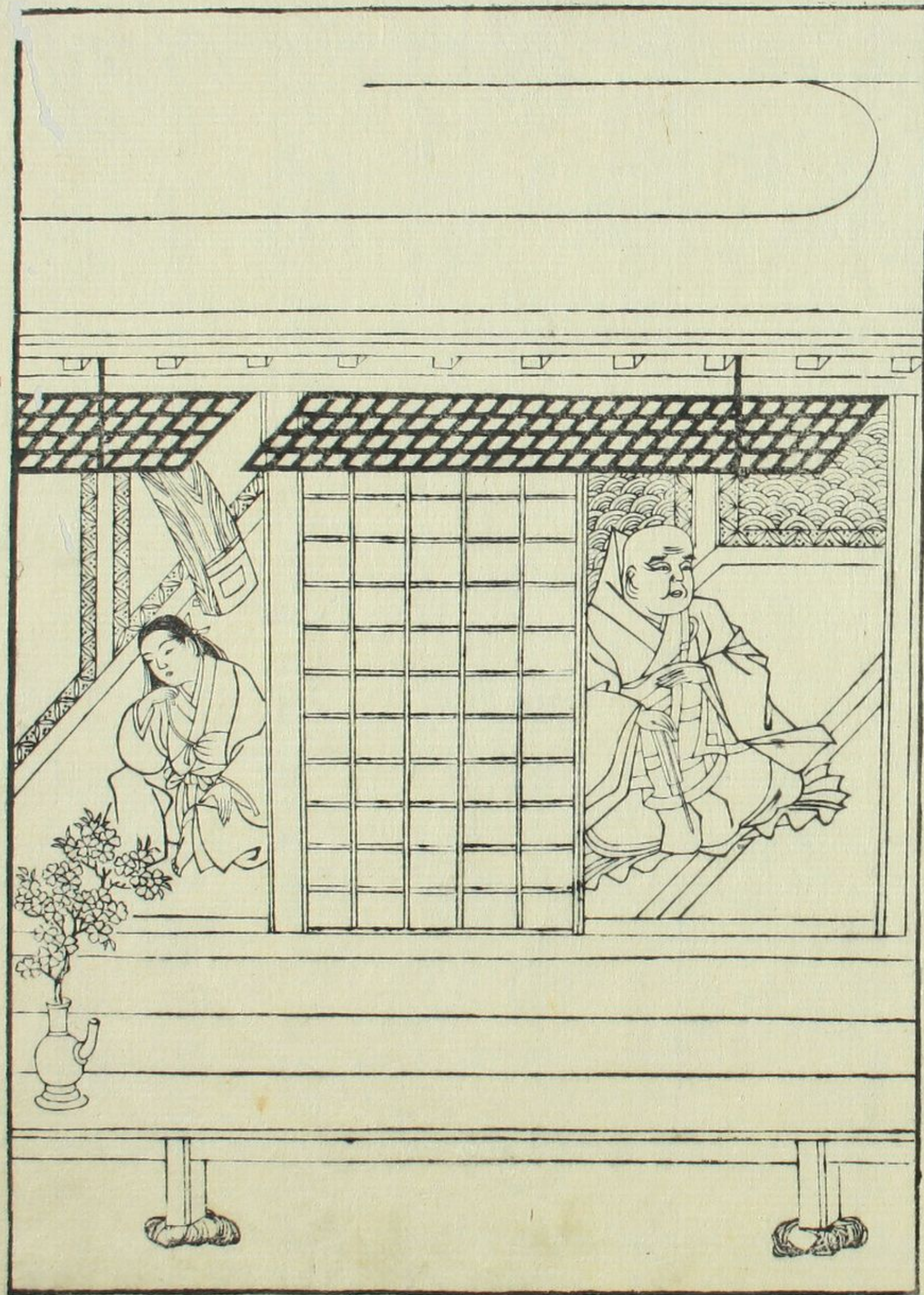
上人黒谷くろやに執しつ居まゐののち後ごにな遍へんりし名な利り哉やとて一向いこうに
ちのつぎおの要んをとしし心こゝろ切きりしまはれしよりのこのつぎに建たてした
よりのこのつぎにいふくしたらんが生なれしをんたる遍へんりしといふ
してはあまりしたらんが一い切きにはたしたらんが被ひ問もんはられしといふ
遍へんりしをよしし自みづか他た宗しゆのの章しやう疏しよ眼がんにあつていふくしたらんが
なりし。惠ゑ解げ天てん然ぜんのの心こゝろをよししたらんが後ごにな遍へんりしといふ
しては天てん台だい智ち者しやのの本ほん意いをよししたらんが後ごにな遍へんりしといふ
しては一い實じつのの戒かい律りつをよししたらんが後ごにな遍へんりしといふ

讀し給ふ。慈眼房の心後もて戒律と云といひ上人の
性ちやうじ之作さくの假色けしき成もて戒律とす物とすく多おほきふ立破たてやぶ
再三小をよひ。回答くわいたふ多時たじをうつととた。慈眼房じがんぼう腹はら
立たして本ほん杭かきをもてうたきをせん。上人師じゆんしのおを
せしめしきり。慈眼房思惟しゆいと云と教しゆ魁けいの後上人
乃部屋なりやよ本條ほんじょうしき。法はふ房ぼう申まをさる旨むねいふや
天台大師の本意。一實後戒乃たいていだいし立た極ごくなりきりたる
申まをされきり。法はふは私しなきこと何なにの違ちがふらん海うみり
かたりきりハ上人をまて軌範きはんらして師しへ
と弟子でしとあり給たまふきり。



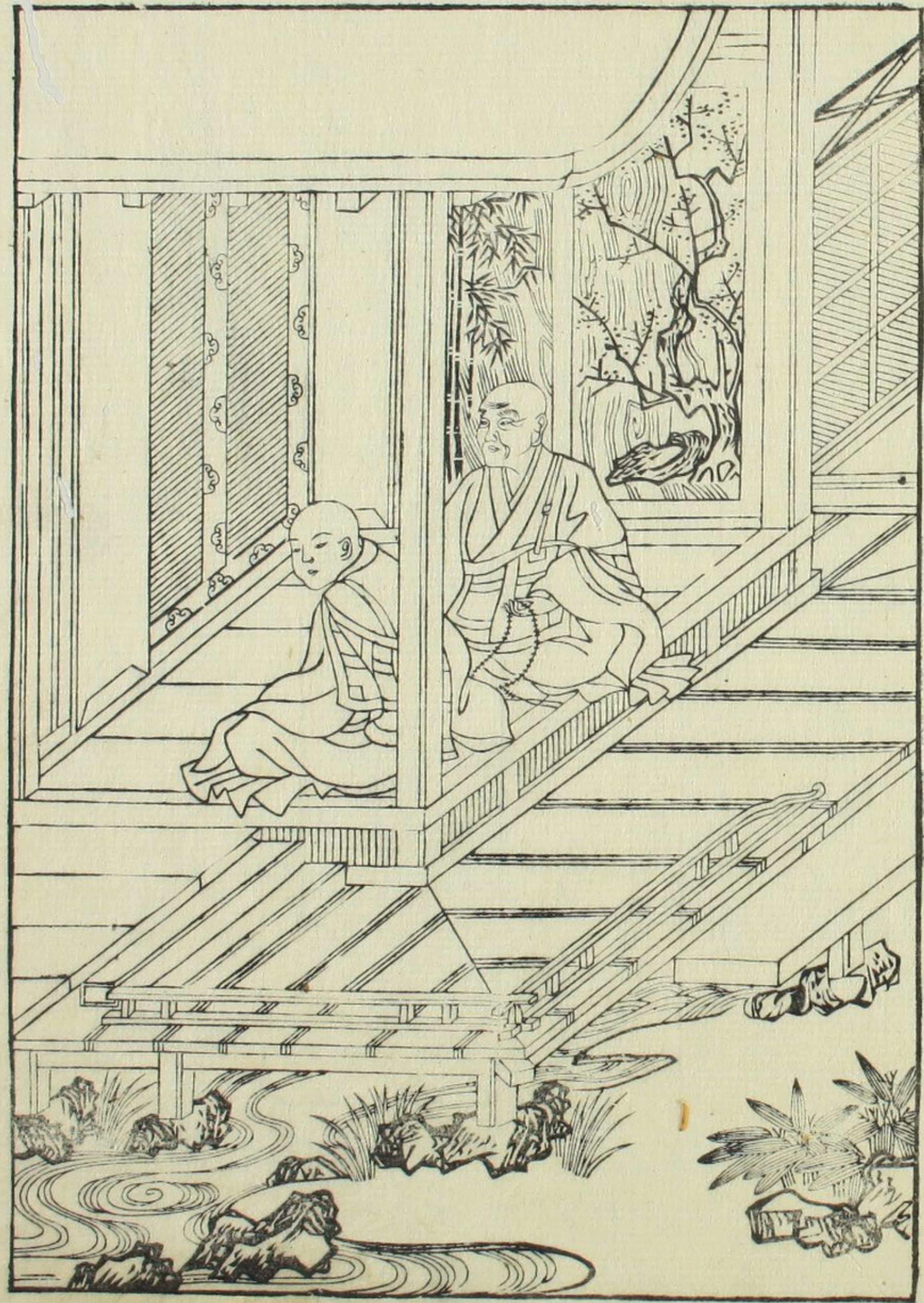
保元二年上ノ二十四乃リ。叡宣上人ヨリ海をこ
 ひ。強流乃清涼寺に七日兼路成行り。求法
 の一事。誠祈請の了。欠なり。誓を。此寺の本尊釈迦
 菩薩ハ。西天の雲をいて。東夏に霞をわけ。三國
 おは。つり。な。く。靈像あ。ま。ん。ご。り。わ。ま。さ。熱。志。を。ん
 こ。ひ。強。い。た。る。も。あ。ま。ん。ご。り。よ。そ。た。る。え。侍。る。





佛

院いん禪ぜん三さん宗しゅう此こゝ先せん達たつあり。檀だん律りつ師し寛くわん雅やこゝなり。
 けいふけいふ以もつ起おこるる所ところ存ぞんををのの魚ぎょ路ろよ。律りつ師しととべべももれ
 いいふふ所ところももちちにに多たくく文ぶん櫃び十じゅう餘よ合ごうををぞぞりりし
 てて予よのの法はふ門もん附ぶ属ぞくととららにに入いるる。ままささととぞぞににここれれ法
 門もんをを一いつ路ろへへりり。おおととくくをを秘ひ書しよをを附ぶ属ぞく一いつ路ろへへ
 ちちりりととててここままををとと。祿りく名な漢かん教きやうののここままととぞぞりり
 けけここれれ福ふくあり。進しん士し入い道だう阿あ性じやう房ぼう等とう。海かいもも一いつ路ろへへのの
 事じ成じやう見けんせせししてて奇き特とくののおもおもひひををななりりたりり。

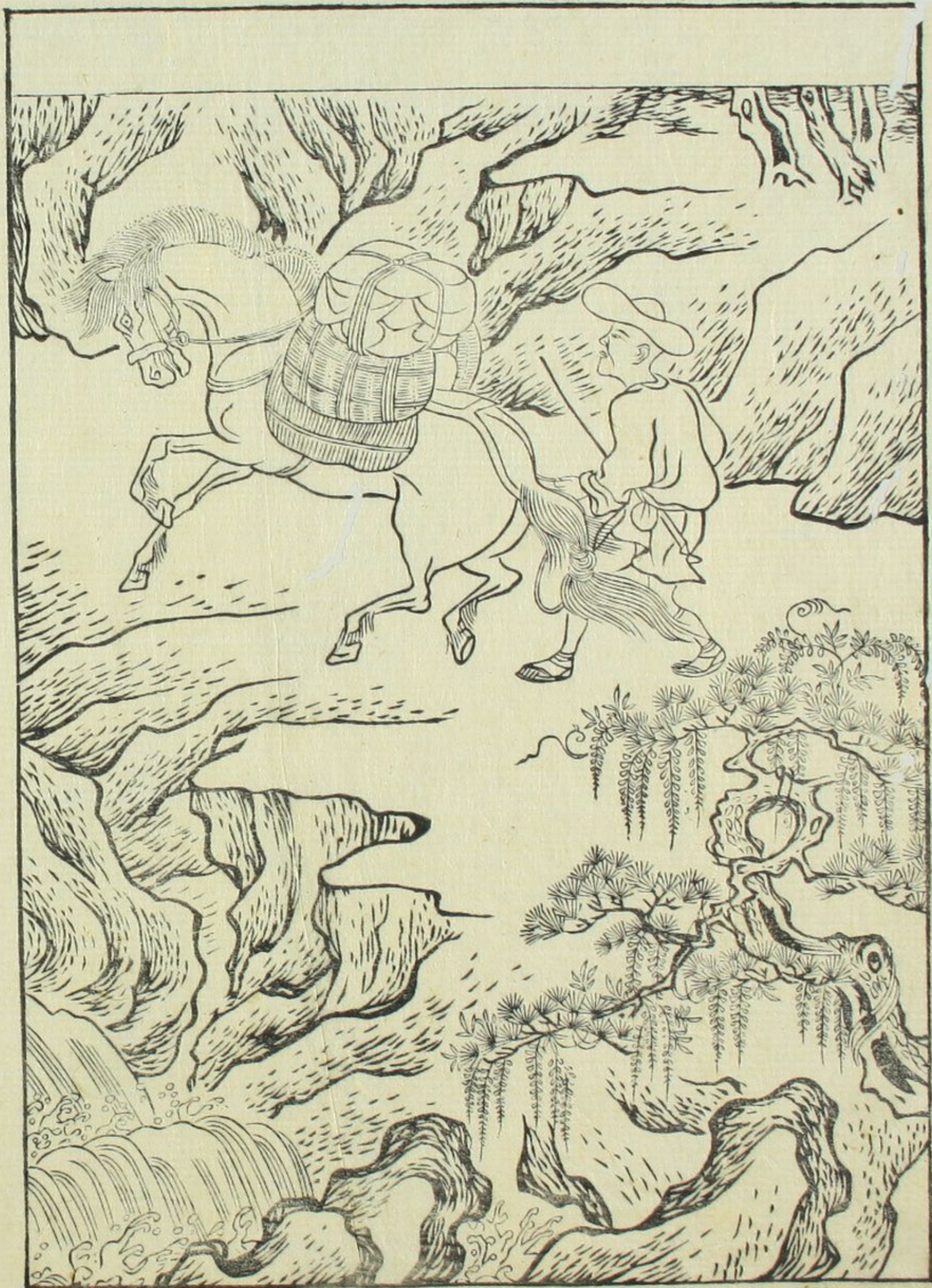




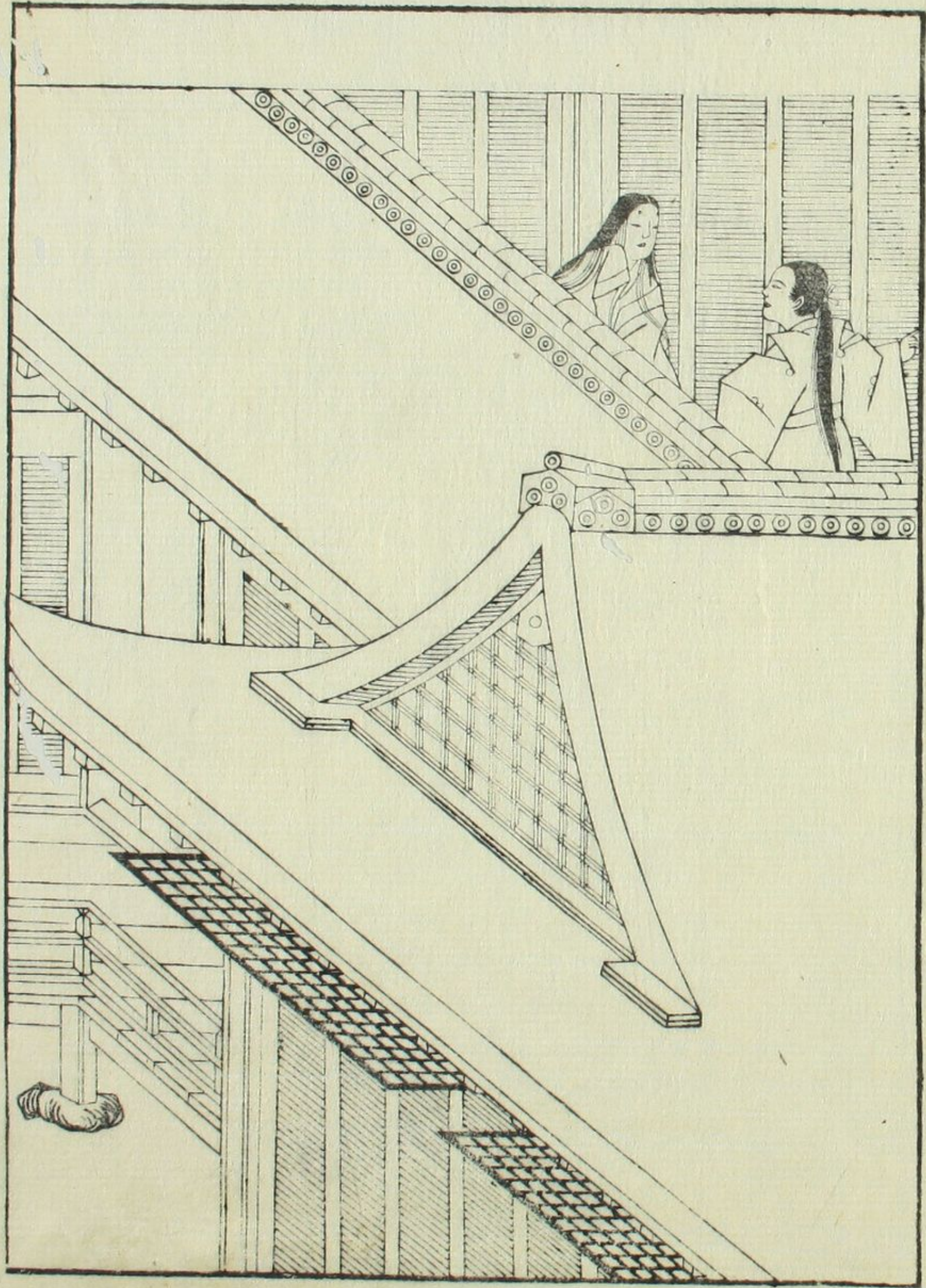
仁和寺に華嚴宗けごんしゅうの名匠なうけいあり。大納言だいなごん法橋ほっけう慶雅けいげと
 号なづは仁和寺の岡おかといふ所に居住するゆへに岡乃
 法橋ほっけうとて申まをする。醍醐たいごもかたはら家いへもや。醍醐たいごの法
 橋ほっけうといふなり。法橋ほっけうは上人じゆんじんの弟子しゆし阿性房あせいぼう乃なり知
 人しゆじんありき。上人じゆんじん華嚴宗けごんしゅうの不審哉ふしんさいといふとけ
 衆しゆしゆより。阿性房あせいぼうをあらはしむるにむむいふまゝなる
 小法橋せうほっけうまのたふたを申まをす。次つぎは弘法こうぼう大師だいしの十住じゆぢゆう
 心しん。華嚴宗けごんしゅうよりしてはけり。法橋ほっけうの心しん。

又申とてろふ。興あるはれも、かく勅申るま
 よ。おほせをううあひひ。これやとんく結あり
 と申とた。初對面た執しとてもあふ。もれとも。字
 句れなしくい。黙止かしくおをこれあふよありと。人
 の後々ふ。たふ志しくい華嚴宗よはよの信す大
 日經の住心品の心教をてはくられさるゆしく結れ。
 才六代他縁大業心。法相宗の意なり。才七の覺心
 不生心。三論宗也。才八の一箇無為心。天台宗なり。

才九の極至自性心。華嚴宗なり。才十の秘密莊嚴
 心。真言宗なりとて。かくい異生羶羊心なり。なり
 秘密莊嚴心まてなをのく偈誦して。一こよそれ
 道理を釈一のへ給く。淺深をたて。勝劣を判と。家
 しくい。諸宗をれく。誰をくく。不変一申たるま。
 天台宗より誰一申候はたど。くりく釋一のつれ
 又華嚴宗の自解の極を。はつた申の極給よ。法
 橋これなきとて。阿性房の縁り。傳ら候よ。びて。これ



上人諸宗より通達し、後、（？）と。人々を教へて
 うへ慶雅法橋（おしろう）の山ありて、自他門ありての学を
 小あひ傳へし。もこ（？）上人が、やうにその申、僧を
 傳へしと。稱美し申さるるを、さうしめられし。山家
 より上人を招請せられ、天台宗を学ばせ給ふなり。
 ねむせしれり。天台宗の昔、かゝる人々、傳へし
 傳へしと。今の但念佛（？）なり。天台宗の廢亡し
 傳へし門は、澄憲（？）三井（？）の道顯（？）なり。名匠



是の節をわすれしはむらさきも^え 徳切の徳を^はしん
 けりともと^は諸宗^のを^はしん^はり^しけり

